



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

## 白神の絆 200号に向けて

広報誌「白神の絆」は、今回で創刊200号を迎えます。これもひとえに当誌をご愛読いただいています皆様方のご支援とご指導の賜と心から感謝申し上げます。

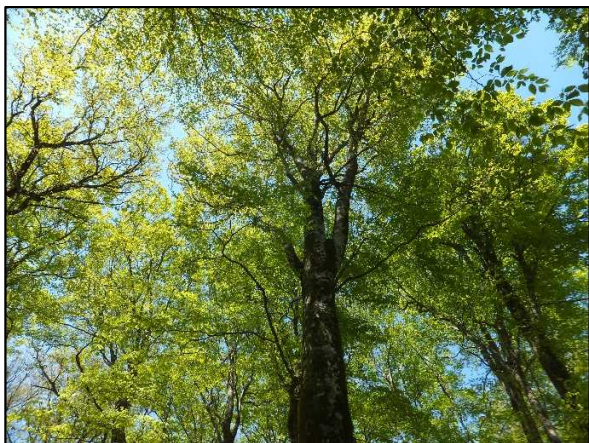
当誌は、平成18年4月に自然再生活動及び生物多様性の保全等を支援する拠点として、「津軽白神環境保全ふれあいセンター」の開所に伴い「津軽白神ふれあい通信」という名称で発行を開始しました。その後、平成25年4月1日に組織名称が、「津軽白神森林生態系保全センター」に改組され、業務の内容も「ふれあい業務中心」から「白神山地の保全」へと役割が変更されましたときも、広報誌の名称はそのままで発行していましたが、平成28年4月18日に発行したNo.118号からは、愛読いただいている皆さんから公募して選考した、現在の「白神の絆」と名称変更して現在に至っています。

この名称には、「世界遺産白神山地の自然と人との関わりによって自然崩壊を防ぎ、多くの人たちに地球温暖化防止や植生の保護の重要性等、白神がその役割を担っていることを称えるもの」との思いが込められていますので、私たちセンター職員もその思いに共感して日々活動しております。

今年度、白神山地は世界自然遺産登録30周年を迎えますが、これからも豊かな自然環境の保全と活用を推進しながら、地球温暖化防止や植生の保護の重要性等の情報発信に努めて参りますので、引き続きご支援等よろしくお願ひします。(高木)



深浦町から見た白神岳



ブナ林(十二湖内)

## ニホンジカ痕跡調査結果を識別キットで検査(体験)!

今回は弘前大学と環境省西目屋自然保護官事務所(以下「環境省」という)の皆さんとの合同による、痕跡調査とその後の識別キットを用いた試料検査を3月28日に実施

したので、以下にその概要を紹介します。

この日は午前中に西目屋村内の国有林においてニホンジカの痕跡調査を実施し、午後から環境省の事務所において採取した試料を専用の識別キットで検査しました。

まず午前中は雪の残る国有林内において、ニホンジカの食痕や糞などを探しました。雪の斜面を登るのは、それだけでなかなかの労力ですが、苦勞して見つけた痕跡は喜びもまたひとしおです（ほんとうは無い方が良いのですが）。

午後からは環境省の事務所へ移動、環境省のご厚意で、私たちも実際に検査を体験させていただきました。

まずは弘前大学や環境省の皆さんが行う作業をじっくり見学。そして次にいよいよ我々の作業です。説明を確認してとにかくトライ！。。をしましたが、はじめての我々には、これがなかなか（苦笑）。作業後、1時間ほどで実際に識別判定が出ると、その結果に、思わず安堵の声が出てしまいました。

今回、はじめて識別キットを用いた検査は、「体験」以上のものではなかったかもしれませんが、それでも、自分たちが採取した試料を、自分たちの手で検査して、自分たちの目でその結果を見ることができたことは、私たちにとってとても貴重な経験となりました。



**検査キットと関係機器**



**まずはじっくり見学**



**真剣な面持ちで作業を体験**

弘前大学や環境省の皆さんに感謝するとともに、今後も関係機関とより一層の連携・情報交換をして、私たちの活動をより実りあるものとしていこう、という思いを強くしました。（赤澤）

## 「白神十二湖山開き、安全祈願祭」に参加しました

厳しかった冬が終わると、この津軽白神の山々は春の訪れが一挙にやってきます。私たちが森林教室などのフィールドにしている白神十二湖も、例年より早い雪解けと新緑の訪れを受け、4月19日に深浦町役場主催による「令和5年度白神十二湖山開き、

安全祈願祭」が開催され、私たちセンターも招待をいただき参加してまいりました。

山開き式典に先立って行われた神事は山伏装束をまとった神官さんが執り行い、響き渡るホラ貝の荘厳な音に、場内は暫し厳粛な空気が流れました。その後の式典も滞りなく終わると、場は屋外に移り、地元中学生による太鼓演奏の披露となりました。中学生の奏でる勇壮な演奏に、深浦町の皆さんがこの十二湖というフィールドをいかに大切にしているかが、太鼓の音とともに伝わってくるようでした。

式典が終わると十二湖を代表するスポット青池の散策をしました。今年最初の青池は、はじまりかけた周辺の新緑をまとい、美しい青さで迎えてくれました。

この5月の下旬には、深浦町との共催により、第1回森林教室をこの十二湖で実施します（この記事が掲載される頃にはもう実施がされていると思います）。参加者の皆さんに、この十二湖の素晴らしさが伝わる活動になるよう、私たちも頑張りたいと思います！（赤澤）



厳粛に執行される神事



今年も青池の美しさは健在です

## 「白神の森遊山道開山式」に出席しました

4月20日は、鱒ヶ沢町主催による「白神の森遊山道開山式」に出席しました。

白神の森遊山道は、鱒ヶ沢町に在って白神山地のエッセンスを気軽に体感できるスポットです。しばらくの間、閉鎖されていましたが、今年度の白神山地世界自然遺産登録30周年に合わせ、昨秋からその利用運営が一部再開され、今年度も土日祝日限定でガイド付きのトレッキングの提供を行います。

式典には関係者とともに、地元小学校の児童も参加し、地域全体で「白神の森遊山道」を盛り上げていこうという雰囲気の中で執り行われました。当センター所長も挨拶にて、鱒ヶ沢町とともに白神山地での活動を盛り上げていきたい旨申し上げました。

式典の締めくくりは参加者全員によるバルーンリリース。白神山地の保全・継承への決意と、今シーズンの安全な活動への祈りを、色とりどりの風船に込めて、青空いっぱいに出しました（この風船は環境に配慮した材料を使っているとのこと）。



センター所長挨拶

なお、白神の森遊山道は、昨年の秋に私もプライベートで歩かせていただきました。白神の森に精通したガイドさんの説明は、新たな発見がたくさんあり、とても刺激になりました。興味のある方は、是非、鱒ヶ沢町（政策推進課観光商工班）に問い合わせしてみてください。きっといろいろな森の顔を見ることができると思いますよ^^（赤澤）



式典を締めくくるバルーンリリース

## 鱒ヶ沢町緑の募金街頭募金活動

鱒ヶ沢町緑化推進委員会は、生活環境の緑化並びに森林整備等の事業を推進し、郷土の発展に寄与することを目的に、晴天に恵まれた5月12日（金）、鱒ヶ沢町内のスーパーなど5ヶ所で、街頭募金活動を行いました。

当日は、鱒ヶ沢町内の「さいかい緑の少年団」（西海小学校）の4～5年生32名、「舞戸小緑の少年団（舞戸小学校）の4年生34名が、緑化推進委員会のメンバーとともに、当センター所長の私と津軽森林管理署地域統括森林官の2名が募金活動に参加しました。

参加者は、開会式を行った後に鱒ヶ沢町内のスーパーや海の駅に分散して募金活動を行い、小学生は募金箱と緑の羽根を持って大きな声で「募金に協力してください！」「自然を守るため募金をお願いします！」などのかけ声で募金を呼びかけて、その声に引き寄せられるように、笑顔でたくさんの方が募金に協力し、中には子供達全員の募金箱に募金してくれた方もいました。児童の中にはあまりにも力が入りすぎて、必要以上の大声を発して先生に注意される一幕もあり、一緒に募金している私たちも思わず笑ってしまいました。

今回集まった募金は、鱒ヶ沢町内の小中学校の花壇整備や地域の植樹活動などに役立てますので、ご協力頂いた皆様どうもありがとうございました。（高木）



声をかけて募金活動



参加した小学生の集合写真